

長浜米原地域医療支援センター 事業報告2021

参考資料

専門員 今井 享子 池野 さち子



平成27年度から在宅医療・介護連携推進事業（介護保険の地域支援事業）の8事業の内 長浜市・米原市からイ・ク以外を受託し事業を行ってきましたが、令和2年9月、次のステップに向けて在宅医療・介護連携推進事業の手引き(Ver3) が改正されました。

その中で ①入退院支援 ②日常の療養支援 ③急変時の対応 ④看取りの場面において、地域の実情に応じ、PDCAサイクルに沿った取り組みが更にすすめられるように示されています。

以上を踏まえて、湖北地域においても 医療と介護の両方のニーズを有する高齢者が増加する中、切れ目のない在宅医療と介護が一体的に提供できるように体制構築に取り組む事を目的に、以下の（１）～（４）事業について実施しましたので報告します。

(1) 必要な医療・介護情報の収集、整理及び活用、課題の把握、施策の企画及び立案、医療介護関係者に対する周知を行う事業

◆ホームページの修正、更新時は業者を介して実施していたが、タイムラグの発生やそのやり取りに手間を要したので、専門員が更新作業のできる自由度の高い業者に変更した。現HPの内容の移行と共に、レイアウトや追加ページの見直し等を行い、より効果的・効率的なHPの運用を目指していく。

・HPの年間アクセス数の経緯

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2120	2726	3139	2679	3804

両市が開催するケアマネジャーの研修会資料や地域リハビリテーション情報等を掲載し幅広く活用。

◆湖北地域の医療を担う診療所機能や在宅医療に特化した機能、訪問看護ステーション機能について2年毎に見直し調査を実施している。今年度に調査結果を急性期を担う3病院に紙面で資料提供を行う。同意されている事業所にはHPの詳細情報を更新した。

◆コロナ第4波における終末期ケアや多職種の情報共有、連携の実態を把握し 関係機関に情報提供を行う事を目的に実態調査を行う

調査機関：令和3年8月13日に配布し8月31日返信期限として郵送で回収

調査対象：①滋賀県訪問看護ステーション第6地区支部16事業所 ②湖北地域で活動する55居宅介護支援事業所

回収率： ① 81% ② 61, 8%

【アンケート項目】

- (1) 2021年4月~6月 訪問・看取りなどの件数
- (2) 在宅看取りをされたご本人（ご家族）の満足度（納得感・肯定感）
- (3) 他職種の情報共有の手段について
- (4) カンファレンスや担当者会議の手段について
- (5) 情報連携についてコロナ前の変化
- (6) 情報共有や連絡手段の困りごと
- (7) コロナ禍における終末期の多職種連携について 回数や連携職種
- (8) ACPについて
- (9) 連携に関する困りごと



※アンケート結果の詳細と多職種連携やACPに関する好事例についてつながり3号に掲載し情報提供を行った。

◆ アンケート結果から課題とまとめ（提言）

電話

受信先／業務中断・情報不足

発信先／不通・複数の伝達による業務量増加

表情が読み取れず相手の反応が分からない

情報通信の弱み

ICT

多職種に瞬時に同メールを発信可能

もセキュリティが問題

機器や通信環境の問題

互換性がないと使えない

びわ湖あさがおネットの利用不足

書面

書類作成に至る業務量の増加

誤送信や書類の紛失

内情が伝わるか不安

- (1) 訪問看護ステーションは事業所の規模や方針により格差があるが、事業所によっては緊急訪問や看取り件数は増加し、全国的な傾向と一致している。看取り件数について、居宅介護支援事業所と差がみられたが、訪問看護ステーションは医療保険対応が加算されていると考えた。
- (2) 在宅看取りをされたご本人やご家族の満足度はいずれも高値を示したが、ACPの関りについて訪問看護ステーションは69%、居宅介護支援事業所は53%で、ACPの考え方が湖北全体に普及できているとは言い難い。多職種のベクトルが併せられるように研修などで啓発していきたい。
- (3) カンファレンスや担当者会議が対面から書面や電話に置き換わり、効果的に情報が伝わっているかという専門職の不安が聞かれた。また、情報共有の手段である媒体には、それぞれにメリットやデメリットの意見があった。レセプトと連動したアプリを使って情報共有している事業所もあるがセキュリティが万全とは言い難い。情報共有の手段として当センターが推奨する 既存のびわ湖あさがおネットは、5～6事業所の活用でまだまだ利活用に至っていない現状が分かった。デジタル化が叫ばれている昨今、効果的な情報共有のために迅速・適確な情報ツールを湖北全体で、統一すべきと考える。

(2) 地域の医療・介護関係者からの在宅医療介護連携に関する相談に応じ、必要な情報提供及び助言、その他必要な援助を行う事業

◆相談支援（R4.2月現在）

相談職種	件数	相談内容と対応
ケアマジャー	6	入所中の他科受診の請求について・医療機器貸し出しシステムについて・かかりつけ医の紹介・デイの看護師に医療処置を依頼できるか・利用者の死亡時にかかりつけ医と連絡が取れず救急搬送になった事例報告・独居で生活困難者の施設紹介
訪問看護師	1	医療保険の場合、死亡診断書の死亡時間によっては、訪問看護の算定ができず、実績があるのに請求できないのはおかしい。他のステーションからも同様の苦情があるので現状を知ってもらいたい。
医療機関	3	老健入所当日の診療所受診では医療費が請求できない。（薬の長期処方を希望される）医療費が算定できず、断ると家族からのクレームを受けるがケアマネジャーはシステムを理解しているのか？・意思決定を記すカード発行の問い合わせなど
民生委員	1	出前講座の受講後、エンディングノートの共有や活用のためにエンディングノートを希望。当センター作成の資料一式を希望する民生委員に渡し活用して頂く。
一般	3	死後の整理について・怪我の治癒遅延について過失がないか・訪問診療可能なかかりつけ医の紹介
合計	14	【今後の方向性】 湖北地域の「困りごと」に関して在宅医師・施設医師を含めた関係職種との意見交換会開催を計画するがコロナ第6波急拡大のため休止中。広報誌つながり4号の中で「地域の困りごと」を情報発信し、専門職への提案や情報共有として周知していく。

(3) 在宅医療・介護連携に関して地域住民の理解を深めるために 普及啓発を行う事業

◆コロナ感染拡大防止のために地域医療福祉フォーラムは昨年と同様に休止

◆出前講座：開催の内訳

対象	座学型形式（※1）	参加型形式（※2）	合計
高齢者サロン	3回	1回	4回
民児協など団体	6回		6回
参加人数	189人	11人	200人
キャンセル	3回		3回

（※1）座学型形式のテーマ

最期まで自分らしく生きるために

（※2）参加型形式のテーマ

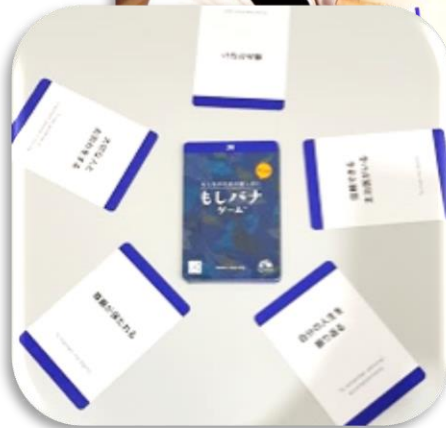
「もしバナゲーム」をしませんか

コロナ感染防止の観点から座学型形式の出前講座を中心に開催しているため、亀田総合病院監修の「もしバナゲーム」を使った対話型の出前講座は積極的に実施できていない。もしバナゲームは効果的、且つ積極的にこれからの生き方／逝き方を考える機会になっている。広く市民に啓発するために「もしバナゲームの実際」を動画収録し、今年度末にHP公開を予定。

また、今年度は民生委員・児童委員から出前講座の申し込みが多く、その中で「共有や活動のためにエンディングノートが欲しい」と希望された。「自分らしい生き方／逝き方を考える」ツールとして、当センター作成の資料一式を民生委員に渡し、関わる高齢者世帯や高齢者独居の方に対して活用していただきたいと考えた。

◆もしバナゲームの実際（進め方）についてHP公開予定

- 1、演者の配役：当センター事業者会議の構成員（5人）
- 2、もしバナゲームの実際を構成員でシュミレーション
- 3、上記を参考にシナリオと手順作成：目的や場面構成、セリフ等
- 4、収録本番（3月16日）：リハーサルと収録（業者委託）



◆平成3年11月25日 読売新聞に掲載

(4) 医療・介護関係者間の情報共有を支援する事業、在宅医療・介護関係者 に対して在宅医療・介護連携に必要な知識の習得及び当該知識の向上の ために必要な研修を行う事業

◆ 多職種連携研修会：3師会の講師によるオンライン学習会……詳細は広報誌つながり3号に掲載

開催日程／講師／参加数	テーマ	内容
8月19日（木）16:00～17:00 浅井東診療所 大西規史先生 参加者：35人	私自身のケア well-being	「well-being」と「reframing」の考え方について受講する。出来事に別の視点を持たせる事で、このコロナ禍においてもプラス思考の考えに及ぶ。3密回避でつながり難い今日も、つながる事の大切さやできない事に力点を置くのではなく強みや長所、できる事に視点を当ててみる事に気づかされた。
9月30日（木）18:30～19:30 みずき薬局 浅井秀星先生 参加者：12人	新型コロナウイルスについて 一緒に考えよう	新型コロナウイルスに関して、特徴や種類、変異株や感染経路、自然免疫や獲得免疫、ワクチンの仕組み等、多くの話題を提供いただいた。講義に波及して、湖北薬剤師会配備の「クリーンベンチ→PCAポンプカセットへの薬液充填」についても情報を得ることができた。
10月21日（木）16:00～17:00 加納町さわ歯科 澤秀樹先生 参加者：18人	在宅でできる 口腔ケア ～訪問歯科診療 の実際	在宅歯科診療について事前質問を中心に講義をいただいたが、困り事への対応策なので受講者にとっては分かりやすいと感じた。歯科医師への親近感やつながり易さに功を奏した。

講師の先生には「多職種へのメッセージ」のテーマでお願いしました。第1回の「well-being」について、内科医からこのようなお話が聴けるのかと驚きました。アンケート結果から、オンライン研修も効果的と感じています。

◆多職種連携研修会：介護関係団体と共催で開催……詳細は広報誌つながり4号に掲載

開催日程／共催先／参加数	内容
①11月25日（木）16:00~17:30 湖北高月地域包括支援センター 参加者：33人	【テーマ】 人生の最終ステージに自宅を決定した「がん終末期患者」 彼女の希望を叶えるために専門職として何ができるか一緒に考えてみましょう 講義：がんの最新情報と考え方 講師：がん看護専門看護師 山岸美紀先生
②12月16日（木）16:00~17:30 神照郷里地域包括支援センター 参加者：37人	講義やグループワークではACPを中心に、本人の想いに触れ、日常の機会です話する・傾聴の事が重要と認識できた。また、自職種には何ができるか？他職種に期待することは何か？等オンライン上ではあるが話し合いができた。同内容のため会を重ねることで、ブレイクアウトルームの仕様にも慣れてスムーズに実施できるようになった。参加者の内ケアマネジャーが57%を占め、他職種への参加アプローチの必要性を感じた。
③12月23日（木）16:00~17:30 米原近江地域包括支援センター 参加者：30人	
④11月15日（月）13:30~15:30 サービス事業者協議会 （介護支援部会） 参加：43事業所	【テーマ】 令和3年度介護報酬改定ポイントと解釈について 1、長浜市・米原市の介護保険グループから資料提供と説明 2、事前質問に対する回答 3、業務継続計画（BPC）作成のポイントなど

Zoomを活用したweb開催 主催：長浜米原地域医療支援センター

人生の最終ステージに自宅を決定した「がん終末期患者」
彼女の希望を叶えるために専門職として何ができるか？
一緒に考えてみましょう。がんの最新情報もお伝えします

日時：11月25日（木）16:00~17:30 湖北高月地域包括支援センター共催
12月16日（木）16:00~17:30 神照郷里地域包括支援センター共催
12月23日（木）16:00~17:30 米原近江地域包括支援センター共催

事例検討会：ブレイクアウトルーム活用
講義：がんの最新情報と考え方
講師：がん看護専門看護師 山岸美紀さん
対象：湖北地域で活動する医療福祉介護関係者
申込〆切：各開催1週間前

同内容で開催します
受講日を選んで
申し込みをお願いします

◆お問い合わせ／申し込み先◆
長浜米原地域医療支援センター
TEL/FAX 65-2755
mail: nm.iryoshien@iaa.itkeeper.ne.jp

希望日時に☑ □11月25日 □12月16日 □12月23日

氏名	職種	所属	☎	メールアドレス

※申込された方に各開催の1週間前頃に受講に関する詳細の案内とIDとパスコードをお知らせします

◆ 多職種連携研修会開催の実際と課題について

項目	実際	課題と対策
Web研修会について	今年度からzoom仕様の研修会を開催している。回数を重ねるとPC操作も慣れてきてメリットも多く感じる。しかし、行政仲介で上記④の介護支援部会と共催した時、当センターからアカウントや資料提供を行ったが、IDパスコードの伝達ミスが原因で、開催15分前に「zoom会議に参加できない」と多くの苦情を受信した。ケアマネジャー連絡網で事なきを得たが、事前準備の確実さが教訓になった。 またブレイクアウトルームの活用には顔出しと一人1台のPC環境、グループ編成には多職種の配置が必要と感じた。	介護サービス協議会との共催には担当者が研修の運びやWebシステムに慣れているとは言い難い。企画段階で役割分担を明確にして共催すべきと考える。また多職種が多く参加できるように日程や時間調整、各団体への参加啓発も必要。
地域包括支援センター共催のメリット	行政の仲介で地域包括支援センターと共催で開催した。湖北7エリアから上記の①～③の共催先を選定し、事例検討会の進行表などを持参し事前説明会を行った。グループワークではガン末期利用者の経験がないメンバーもいて、話し合う前に病態や情報の確認が必要と感じた。ブレイクアウトルームの性格上、話し合う要点を2つにしたが、参加者の全体像まで認識できていなかった。また、今年度の介護保険の改正では、地域包括支援センター等が企画する研修会への参加が事業所加算の算定要件になると発表されている事で参加啓発の後押しになる。	共催先にファシリテーターをお願いするだけでなく、企画段階から一緒に計画することで対象者の全体像も把握できると考えた。また、事業所加算の算定効果を鑑み、次年度も地域包括支援センターと共催で開催し、参加増につなげたいと考える。

◆ 広報誌つながり3号の発行

○多職種連携研修会：3師会の先生を講師にWe b 学習会のポイント紹介

- ・私自身のケア Well-being
- ・新型コロナウイルスについて
- ・在宅でできる口腔ケア

○コロナ第4波における終末期ケアに関する実態調査結果

- ・訪問看護ステーション／居宅介護支援事業所のアンケート結果から
- ・ACPや連携に関する好事例（2事例）の紹介



◆ 広報誌つながり4号の発行

○多職種連携研究会：講義とブレイクアウトルームを活用した事例検討会

- ・ 講義：がんの最新情報と考え方
- ・ テーマ：彼女の希望やQOLを支えるために
「自職種にできること」「他職種に期待する事」

○トピックス

- ・ 湖北の地域医療と介護を担う専門職の困りごと
- ・ もしバナゲームの動画をHPに公表予定



(5) その他の事業

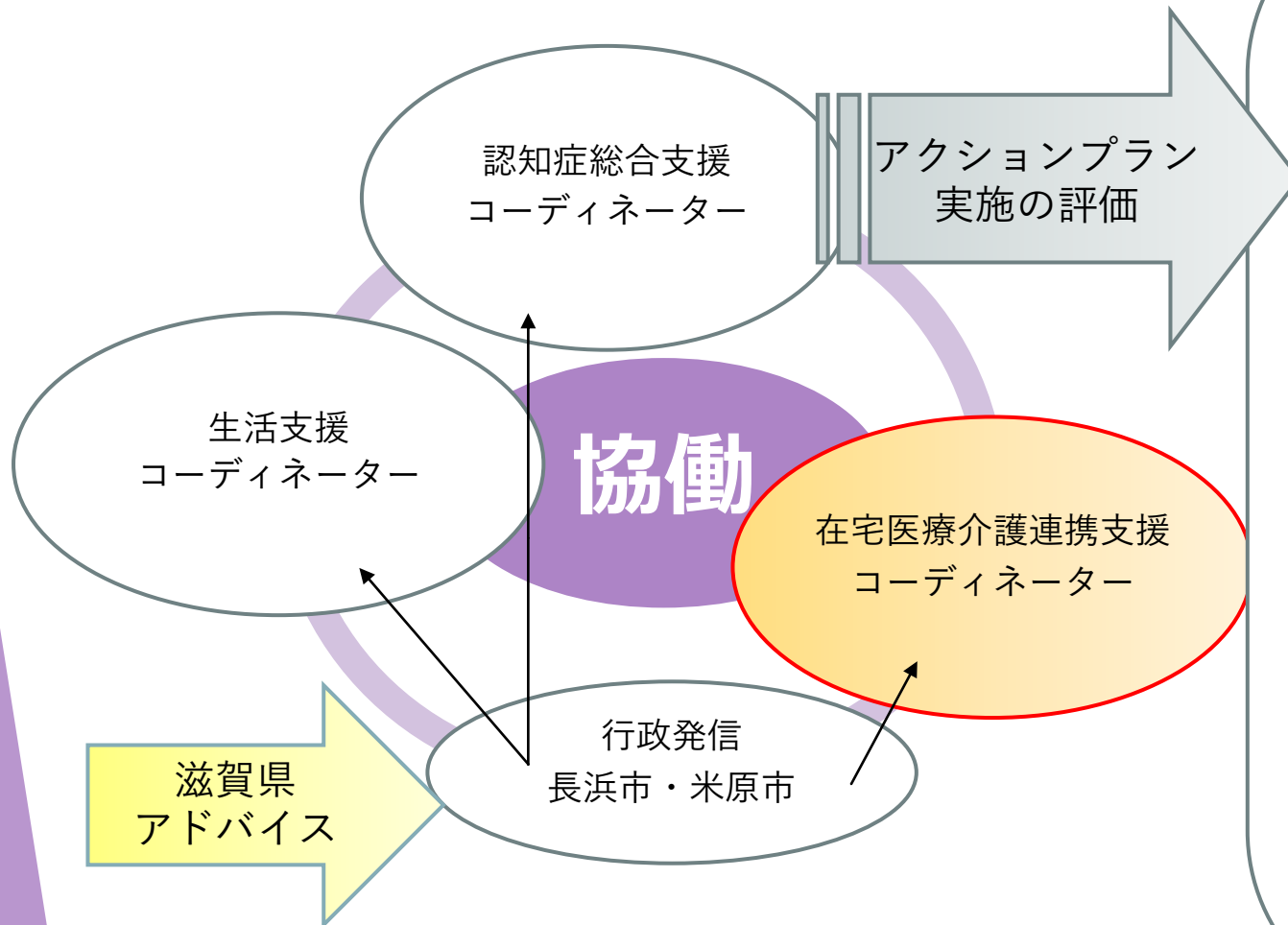
◆ 関係する会議に出席し課題抽出や対応策の検討に協力

- ①長浜米原地域医療支援センター事業会議（1回／2か月）
- ②湖北地域介護サービス事業者協議会にオブザーバーとして参加（2回）
- ③湖北圏域リハビリ連携推進会議（2回）
- ④湖北地域連携クリティカルパス連絡会（1回）
- ⑤入退院支援ルール会議（医療と介護の連携にかかる意見交換会）
- ⑥湖北地域看護職連携会議（1回／2か月）
- ⑦我がまちの地域包括ケアを考える研修会・打ち合わせ会など（※）
- ⑧在宅医師・施設医師と多職種関係者との意見交換会（専門職の困りごと）
- ⑨在宅療養支援センター運営協議会（県医師会主催）

コロナ感染回避のため①以外はZoom会議が主流。
⑤と⑧についてはコロナ第6波の感染急拡大のため休止中。

◆滋賀県主催「我がまちの地域包括ケア」を考える研修会（※）

- ▶ 市町の地域の実情に応じた地域包括ケアシステムのネットワーク充実
- ▶ P D C A を繰り返し行い、目標の実現化を図る



【長浜市の評価】

認知症啓発チラシは昨年度に継続し、併せて約500枚の住民配布ができた。併せて、啓発チラシ配布時に3コーディネーターの統一アンケートを実施した。

- ・実施期間：R2.12月～R3.12月
- ・実施回数：計18回／回答数379

アンケートでは、希望する場所で最期を迎えられるかや相談者の有無、また地域での手助けや助け合いのある地域か等を質問した。全体に好意的な回答であったが、このような集まりに参加する人は自覚者ともいえるため、マイナス意見にも注視する必要性を感じた。

※希望する場所で最期を迎えられると
思わない9%
あまり思わない53% } (総実数235人)
※相談者がいない7% (実数27人)

今後も啓発を継続し、コロナ感染が落ち着き次第行動目標である認知症カフェに参画できるように準備しておく。